

CHILD SEAT

Patent Number: JP11011192
Publication date: 1999-01-19
Inventor(s): SAITO SETSUO
Applicant(s): CAR MATE MFG CO LTD
Requested Patent: ☐ JP11011192
Application: JP19970184581
Priority Number(s):
IPC Classification: B60N2/26
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PROBLEM TO BE SOLVED: To support a little child safely, comfortably for a long time, and without tiring him/her, by providing air bags for right and left upper parts of the front surface and a back part of the seat body, providing a cushioned seat which diffuses sweating steam for the central upper part, and providing at least one mesh bag seat with a pellet for a position corresponding to his/her kidney.

SOLUTION: Air bags 8, 9 which can be filled with air or exhaust air are respectively placed on back sides of covers of a seat body 1 corresponding to neighborhood of both sides of the head part and back part of a little child who sits on a seat. This bags 8, 9 can be filled with air by an air pump 11. A skin cover 12 has gas permeability, and a foam urethane resin seat 13 which is cushioned, diffuses sweating steam, and has continuous bubbles is inserted between the skin cover 12 and the seat body 1. A seat 17 which is formed by inserting cut small pellets into the mesh bag is placed at a position corresponding to the hip of the little child 6. Therefore, injury due to vehicle collision can be reduced, and fatigue is reduced due to adequate cushion function.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-11192

(43) 公開日 平成11年(1999) 1月19日

(51) Int.Cl.⁶

B 6 0 N 2/26

識別記号

F I

B 6 0 N 2/26

審査請求 未請求 請求項の数 4 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平9-184581

(22) 出願日 平成 9 年(1997) 6月26日

(71) 出願人 391021226

株式会社カーメイト

東京都新宿区榎町72番地

(72) 発明者 斉藤 節男

東京都新宿区榎町72番地 株式会社カーメイト内

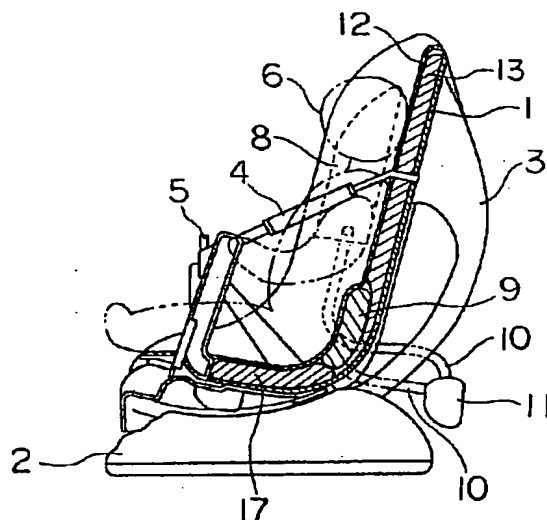
(74) 代理人 弁理士 澤木 誠一 (外 1 名)

(54) 【発明の名称】 チャイルドシート

(57) 【要約】

【課題】 従来のチャイルドシートにおいては、安定性、快適性において不十分であった。

【解決手段】 本発明においては、シート本体の前面上部左右に形成した空気袋と、腰部に設けた、空気袋と、上部中央に設けたクッション性、発汗蒸気拡散性のある連続気泡性発泡シートと、臀部対応位置に設けた、合成樹脂の多数のペレットを入れた網袋シートの少なくとも1つを有せしめ、上記空気袋はポンプによって加圧自在とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 シート本体と、上記シート本体の前面上部左右に設けた空気袋と、この空気袋に空気を排気可能に注入する手段とより成ることを特徴とするチャイルドシート。

【請求項2】 シート本体と、上記シート本体の前面腰部に設けた空気袋と、この空気袋に空気を排気可能に注入する手段とより成ることを特徴とするチャイルドシート。

【請求項3】 シート本体と、上記シート本体の前面上部中央に設けたクッション性、発汗蒸気拡散性のある連続気泡性発泡シートとより成ることを特徴とするチャイルドシート。

【請求項4】 シート本体と、上記シート本体の臀部対応位置に設けた、合成樹脂の多数のペレットを入れた網袋シートとより成ることを特徴とするチャイルドシート。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】本発明はチャイルドシート、特に、改良されたチャイルドシートに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、チャイルドシートとしては、例えば実開平6-12167号公報に示されたものがある。

【0003】図4はこのような従来のシートを示し、1はシート本体、2はベース台、3はレール、4は肩ベルト、5はバックルであって、幼児6は肩ベルト4によってシート本体1に固定され、レール3によってリクライニング可能である。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】然しながら、このような従来のチャイルドシートではシート本体1が衝突に対する安全性を確保するため堅固な構造を有しているため、長時間の着座に不向きであった。

【0005】また、幼児が寝ってしまった場合、図5に示すように幼児6の頭部が左右に傾き保護者から見て不安感がある。そのため図6に示すようにウレタンパッド7を頭部に接近して固設したものもあるが、夫々幼児の体躯に合わせてその大小を変更できず、その頭部の安定性に欠けるものであった。また、車輻側面衝突の際に激しい頭部の振れにより、頸部や頭部の傷害を生じる虞れがあった。

【0006】また、チャイルドシートは、一般に幼児腰部に関して支えとなるものがなく、特にリクライニング機能を有するシートでは疲労感を軽減するものがなく改善が望まれている。

【0007】更に、幼児臀部に関してもクッション性を保持するものの通気性に欠けるものであり、密着されることで、発汗蒸気が籠もり幼児にとっては不快なもので

あった。

【0008】本発明は上記の欠点を除くようにしたものである。

【0009】

【課題を解決するための手段】本発明のチャイルドシートは、シート本体の前面上部左右に形成した空気袋と、腰部に設けた空気袋と、上部中央に設けたクッション性、発汗蒸気拡散性のある連続気泡性発泡シートと、臀部対応位置に設けた、合成樹脂の多数のペレットを入れた網袋シートの少なくとも1つを有し、上記空気袋はポンプによって加圧自在である。

【0010】

【発明の実施の形態】以下図面によって本発明の実施例を説明する。

【0011】本発明においては、図1及び図2に示すようにシートに着座した幼児頭部両側方付近ならびに腰部に相当するシート本体1の各部のカバー裏側に夫々に空気充填ならびに排出可能な空気袋8、9を配置し、この空気袋は、8、9には夫々管10を介して空気ポンプ11により所望の空気圧を充填可能ならしめる。

【0012】本発明のチャイルドシートは上記のような構成であるから、上記空気袋8、9内の圧力を幼児6の体格に応じて適切に設定でき、シートに着座した幼児6の頭部の左右の振れを効果的に阻止でき、特に、車輻側面衝突の際に激しい頭部の振れを緩和し、頸部や頭部の傷害を軽減できる。また、腰部に適切なクッション作用を与え、疲労を軽減できるようになる。

【0013】なお、空気袋8、9内の空気を抜く手段を、例えばシート本体1の上端に設けてもよく、または、ポンプ自体に空気排出作用があるものを使用しても良い。

【0014】なお、空気ポンプ11は空気袋8、9から取り外し可能としても良く、この場合にはシート体1にポンプ収納部（図示せず）を設け、このポンプ収納部内に上記ポンプ11を収納できるようにするのが好ましい。

【0015】また、空気袋8、9内に連続気泡性発泡シートを必要に応じてスプリングと共に封入せしめると共に上記空気袋8、9に吸排気口用の弁（図示せず）を設け、チャイルドシートを使用しない時には上記弁を開き、上記発泡シートの復元力により常時上記空気袋8、9を膨らませ上記空気袋8、9内の空気圧を充填状態とし、チャイルドシートを使用する時には、幼児の体格に応じて上記空気袋8、9を潰して空気を空気袋8、9の吸排気口から排出せしめ、幼児6の体格にあったところで上記弁を閉じるようにしたセルフポンプ方式を使用しても良い。

【0016】この場合には空気ポンプ11が不要になると共に、吸排気口の弁を開くのみで自動的に空気袋内に空気を充填せしめることができるから、ポンピング等の

空気を入れる手間を省くことができる。

【0017】本発明の他の実施例においては、図2に示すように表皮カバー12を通気性とし、この表皮カバー12とシート本体1の背中部分との間にクッション性のある発汗蒸気拡散性のある連続気泡性の発泡ウレタン樹脂シート13を介挿せしめる。

【0018】この実施例によれば、クッション作用のみならず発汗蒸気拡散性が良好となる。

【0019】本発明の更に他の実施例においては、図3に示すようにポリプロピレンやポリエチレンの棒体14を細かく切断して得たペレット15を網袋16内に入れて形成したシート17を図2に示すように幼児6の臀部位置に配置せしめる。

【0020】この実施例によれば、シート17により幼児の臀部形状に沿った、クッション性及び発汗蒸気拡散性の良好な座面を形成できるようになる。

【0021】

【発明の効果】上記のように本発明のチャイルドシートによれば、幼児を安全快適に且つ疲労感なく長時間支持できるようになる大きな利益がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のチャイルドシートの正面図である。

【図2】本発明のチャイルドシートの縦断側面図である。

【図3】本発明のチャイルドシートにおいて用いるシートの説明図である。

【図4】従来のチャイルドシートの側面図である。

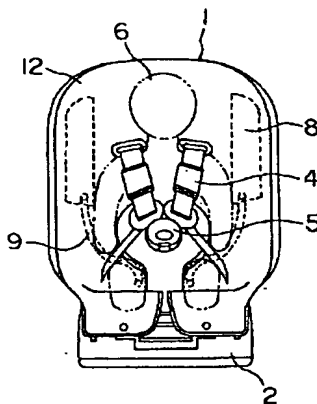
【図5】従来のチャイルドシートの正面図である。

【図6】従来の他のチャイルドシートの正面図である。

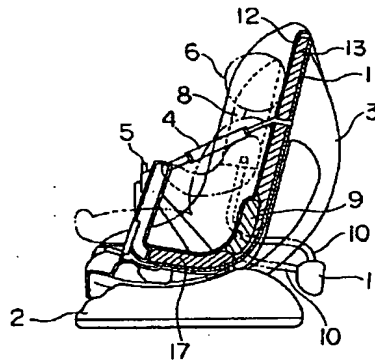
【符号の説明】

- 1 シート本体
- 2 ベース台
- 3 レール
- 4 肩ベルト
- 5 バックル
- 6 幼児
- 7 ウレタンパッド
- 8 空気袋
- 9 空気袋
- 10 管
- 11 空気ポンプ
- 12 表皮カバー
- 13 樹脂シート
- 14 棒体
- 15 ペレット
- 16 網袋
- 17 シート

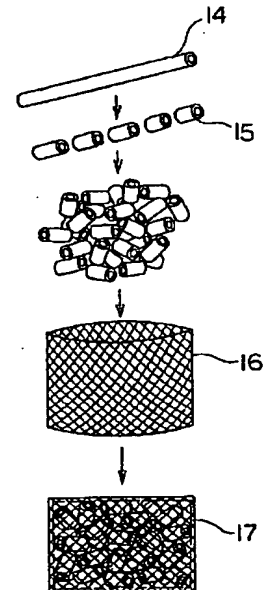
【図1】



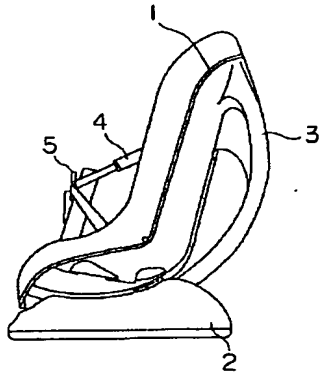
【図2】



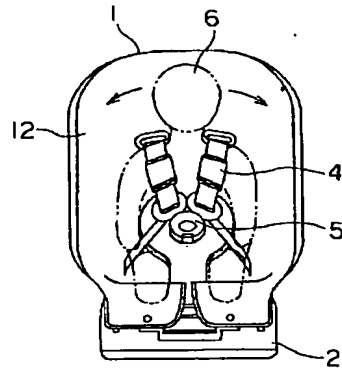
【図3】



【図4】



【図5】



【図6】

